

ヨハネ 1 章 19～34 節「ヨハネの証言」

聖書は様々なことばでイエス・キリストがどのようなお方であるか、キリストが与えてくださる救いがどのようなものであるかを教えています。キリストの素晴らしさ、恵み深さ、与えてくださる救いの豊かさを教えられます。

1. 自分についての証言（：19～28）

「バプテスマのヨハネ」は罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えており、彼のところには多くの人々がやって来て、バプテスマを受けていました。ユダヤの指導者たちは自分たちの権威のもとで活動しているのではない彼のことを調べようとしました。

遣わされた使者たちがヨハネに「あなたはどなたですか」と尋ねると、ヨハネは「私はキリストではありません」と明言しました。人々はヨハネのことを、もしかするとこの方がキリストではないか、と考えていました。使者たちは「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか」と尋ねます。人々は預言者エリヤが再来すると期待していました。しかし、ヨハネはこれもはっきりと否定します。すると使者たちは「では、あの預言者ですか」と尋ねます。申命記に記されているモーセのような預言者が現れるということも人々は期待していました。しかし、ヨハネはこれもはっきりと否定します。

使者たちは想定していた可能性をどれも否定されたので、それでは「あなたはだれですか。…あなたは自分を何だと言われるのですか」と問います。23 節。

ヨハネは自分のことを、旧約聖書のイザヤ書にある預言のことば、「主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声」だと言います。神、主を素直に受け入れるように民の状態を備えるようにということです。そのためにヨハネは人々に悔い改めのバプテスマを宣べ伝えていました。人々が自分の罪を告白して、悔い改めて神に立ち返るようにと促し、悔い改めた人にはそのしるしとしてバプテスマを授けていました。

このヨハネの答えを聞いても使者たちは納得できなかったようです。パリサイ人から遣わされて来ていた使者たちは、ヨハネがバプテスマを授けているのは誰の権威、何の権威によっているのかと問います。それに対してヨハネは、「私は水でバプテスマを授けています」と言います。そして、ヨハネは自分よりも権威ある方、偉大な方が来られると言います。「その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません」と言います。その方は偉大な方であると言います。ヨハネは道を備える者であり、その後から来られる方がいるのです。

ヨハネのように私たちも、本当に仕えるべきお方、神、主のことを知らされるほどに、謙遜になるのだと思います。主から自分に与えられた使命を理解すると、へりくだって仕えることができます。自分を誇るのではなく主の栄光を表すことができるのです。

2. イエスについての証言（：29～34）

29～31 節。ヨハネが「私の後に来られる方」と言っていたのは、このイエスのことだと言います。そして、イエスのことを「世の罪を取り除く神の子羊」と呼びます。「神の子羊」ということばから、旧約聖書をよく知っているユダヤ人たちはいくつかのことを思い起こしたに違いありません。

その一つは過越の子羊のことです。イスラエルの先祖がエジプトでの奴隷状態から救い出される時、子羊が屠られ、その血を塗った家は、災いが過ぎ越していき、イスラエルは救われました。

もう一つは聖所でいけにえとして献げられた子羊のことです。礼拝する者の罪を代わりに子羊に負わせ、その子羊のいのちによって贖いと宥めを行いました。そうして、罪が赦され、神の御前に礼拝を献げることができたのです。

この過越の子羊、またいけにえの子羊となるためにイエスは来られたとヨハネは言うのです。すなわち「世の罪を取り除く」ためです。「取り除く」ということばは背負うという意味もあり、「(十字架を) 負う」と言うときにも使われます。イエスが「神の子羊」としてご自分のいのちを献げ、罪を負って身代わりとなり、十字

架で死なれることによって、罪が贖われ、神の怒りが宥められるのです。それゆえに、信じる者はいのちを救われ、罪を赦され、神を礼拝して生きるようになるのです。

このことをバプテスマのヨハネは神からの特別な啓示によって知ることができました。32 節。イエスがバプテスマを受けて、水から上られると、「御霊が鳩のように天から降って…とどま」りました。これは神からの特別な油注ぎでした。旧約時代には、神から使命を与えられた人に御霊が与えられ、それを表すようにその人に油が注がれました。そして、御霊の助けによって、その人が使命を果たすことができました。

御霊がイエスに降り、とどまるのを見たヨハネですが、その前に神から告げられていました。33 節。御霊が降り、とどまる方は「聖霊によってバプテスマを授ける」のだと教えられていました。ヨハネが授けていた水によるバプテスマは、人々を清めるものでしたが、清められた人々がその清さを保つための賜物を与えるものではありませんでした。それに対して、聖霊によるバプテスマを授けられた者は、聖霊によって新しく生まれ、イエス・キリストを信じて、みことばに聞き従い、神に仕えて生きる力を与えられるのです。

今、教会で授けているバプテスマはどうなのでしょう。教会はイエス・キリストを信じる信仰を告白した人にバプテスマ、洗礼を授けています。儀式としては水のバプテスマです。しかし同時に、バプテスマを受ける人は、罪を悔い改め、イエス・キリストを信じています。聖霊によって新しく生まれ、信仰を告白し、みことばに聞き従い、神に仕えて生きていこうとしています。その人は聖霊のバプテスマを受けているのです。

ヨハネは神からこのような啓示を受けていて、そしてイエスが来られてバプテスマを受けたときに、その啓示の通りになりました。34 節。

ヨハネはイエスに御霊が降り、とどまるのを見ました。また、他の福音書にあるように、イエスがバプテスマを受け、御霊が降ったとき、天から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と声がありました。それで、ヨハネはイエスこそ、自分が道を備えていた方、自分の後から来られる方、自分が履き物のひもを解く値打ちもないほどの偉大な方、世の罪を取り除く神の子羊、聖霊によるバプテスマを授ける方であると知ることができました。そのようなお方は、天からの御声があったように、「神の子」に他ならないと確信して、ヨハネは証言したのです。

特に主イエスが「世の罪を取り除く神の子羊」であることを心に留めましょう。イエス・キリストは「世の罪を取り除く」ために来られました。キリストは私たちを罪から救う救い主です。神の子羊であるキリストは私たちの罪をその身に負って、十字架で死なれ、罪を取り除いてくださいました。そのことを信じて受け入れる者を、神は罪を赦し、きよい者と見てくださいます。

また、イエス・キリストはすべての人の救い主です。キリストは世の罪を取り除かれます。キリストがご自身のいのちをもって払われた代価は、すべての人の罪の負債を帳消しにして、なお余りあるのです。罪のないイエスの流された血は、すべての人の罪を十分に洗いよめることができる尊いものです。神の子羊であるキリストは私たちすべての、一人ひとりの罪を取り除いてくださるのです。

そして、イエス・キリストはご自身を信頼する者から、日々、罪を取り除いてくださいます。十字架で死なれ、よみがえられたキリストは、天に昇られ、神の右の座に着き、絶えず父なる神に私たちのことをとりなしてくださっています。私たちが日々自らの罪を告白し、悔い改めてキリストの十字架を仰ぐとき、私たちの罪を取り除いてくださいます。

イエス・キリストを「世の罪を取り除く神の子羊」と信じましょう。主イエスが私の罪を代わりに負って十字架で死なれたこと、そして私の罪を取り除いてくださることを感謝しましょう。そして、日々キリストの十字架を仰いで、きよめられ、新しくされて、主に仕える歩みを続けていきましょう。